

令和元年度 叡明高等学校 学校自己評価シート

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校目標	建学の精神である「みんなから愛され、信頼される人」「社会に役立つ人」「勤労を尊び前進する人」を育てることを目標とする。「叡智・高志・協調」を教育の理念とし、①自主自立の精神を養い、自ら学び自ら考える力を育む。②確かな学力と規範意識に基づく豊かな社会性を養い、たくましく生き抜く力を育む。③思いやりの心や個性を伸ばし、一人ひとりの夢や希望を育む。以上の3点を具体的な教育方針とし教育活動を行う。
本年度の目標	叡明高等学校としての5年間を検証し、継続または発展させるべきことと、改善すべき点を明確にし、それらを踏まえて学習活動の指導、規範意識や道徳心の涵養、基本的生活習慣の定着を図る。

評価項目	現状	具体的な方策	評価指標	経過・達成状況	達成度	次年度の課題と改善策	学校関係者評価	
							実施日	令和2年6月19日
							学校関係者からの意見・要望・評価等	
1 業務の効率化 教育環境の充実	<ul style="list-style-type: none"> 各部署や学年間での連携が十分に取れていない面がある。 慣例で行われている業務がある。また、業務における指示書の数が多いため、煩雑化を招いてしまっている面がある。 個々の授業に対する支援や、授業力向上のための取り組みが十分に行えていない面がある。 新指導要領に対応できるカリキュラムを確定する必要がある。 学力、学習意欲・態度において、コース・個人間で差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 部長間で話し合う機会を設け、意思の疎通を図り、協力関係を強化していく。 教員業務の明文化を推し進めていく。 他部署、特に教科指導部と連携し、通常授業の進度をふまえた講習の内容を設定するなど、より効果的な生徒の学力向上を目指す。 教科会議の充実を図る。また、教員同士の研修・遠慮のない進言ができる環境や研究授業の機会を作り、学習指導方法の工夫・改善を積極的に行い、わかりやすい授業を行う。 現在行われている業務を精査し、効果と効率を考え、業務全般を整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> 教務主導による学校業務の確立。 部署を越えての学校業務における協力関係の確立。 教務上の教員業務マニュアルの積極的活用。 教科全体での授業への支援体制の充実。 学習意欲の向上。 学習習慣の定着。 学習に集中できる環境の確立。 授業中の巡回指導等による指導体制の確立。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校業務において教務主導で行うことができたものもあるが、効果・効率という面から再検討すべき業務もある。 業務必携としての教務マニュアルにおいて、昨年度以上に内容を充実することができた。 新カリキュラムについては、働き方改革における勤務の再構成の検討を優先したため、実質的には検討中の状態で終わってしまった。 教科会議を教務主導で行えたが、個々の授業への教科の支援という面ではまだ課題がある。 放課後残って学習する生徒や、積極的に質問をして、苦手な分野を克服していこうとする生徒の姿が多くみられる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 多くの業務を教務主導で行えたが、学校業務全般を見直し、実施の有無や方法を検討する必要がある。 さらなる教務的業務の明文化として、業務必携の内容を充実させる。 教科指導部への協力関係強化と教科会議の充実化で、授業力向上のための体制を整える。 学習意欲の向上、成績不振者の解消に向けて、追試験・成績不良者への対応、成績処理の方法を改善していく必要がある。 新カリキュラムを確定し、英語の4技能への対応も検討・確立しなければならない。また、ICT化も進めなければならない。 	<p>Q 教務部に関して、成績不振者の解消、追試験・再試験の実施についての意見。</p> <p>試験を欠席した生徒あるいは成績不良となった生徒に対して、追試験・再試験を実施し、単位不認定から原級留置とならないよう配慮していただいていることはありがたいと思うが、努力不足から成績不良となっている生徒に対して数回に及ぶ再試験を実施する必要があるのか疑問である。努力した生徒とそうでない生徒との違いは明確にしてほしい。厳しいが、適正な評価を行ったうえで原級留置はやむを得ないと思うとの意見が出された。</p> <p>A. 教務部としても、安易な追試験・再試験の実施は、生徒の安易な取り組みにつながることから、次年度は追再試験は実施しない方向で検討していると回答した。</p>	
2 教科指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> 大学進学を希望する者が大半である一方、一般入試の受験者数は少ない。 医療系への進学希望者が増えている。 難関大学合格者が少ない。 土曜講習が進学実績の向上に貢献しているとはいえない。 各種検定試験の受験者や、外部模擬試験の受験者が増加している。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導部との連携による大学を意識した進路ガイダンスの開催 公開授業週間や教科担当同士の研修や連携を推進して、教科指導方法を常に検証し、わかりやすい授業を通して生徒たちに学ぶことの大切さや喜びを体感させるべく、授業力を向上する。(教員相互の授業見学) 授業と大学進学対策講座講習の体系化を図り、難関大学への合格者を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> 大学合格実績 模試の結果の推移 講習への参加率 難関大学の入試に対応した授業や講習の実施 検定合格者数と合格率 教員向けガイダンスへの参加数 	<ul style="list-style-type: none"> 大学合格実績は厳しい状況ではあるが、一般入試で難関大学へ一定数合格させることができた。 難関大学の入試に対応できる態勢をより整えるべく、土曜講習や長期休暇中の講習に加え、放課後講習を実施した。 教科横断的な情報共有の場を構築することはできなかった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 安易に推薦入試に流れるのではなく、目的意識を持たせようとして、入試方法の選択をさせる指導を行わなければならない。 難関大学に挑戦する生徒たちへの学習指導の在り方をさらに検討を加え、より充実したものにしていきたい。 土曜講習の実施方法・回数を含め、意義や費用対効果の高いものに変えていきたい。 英検だけではなく、他の検定試験への受験を積極的に推進していく必要がある。 	<p>Q 進路指導について</p> <p>大学入試など進路に関する情報の早期の提供をお願いしたい。英語外部試験の活用の中止、共通テストの記述式問題の中止など、大学入試改革について混乱が見られている。eポートフォリオの取り組みを行っているとの説明があったが、利用予定の大学は少ないと言われている。その中で取り組みを継続するのはなぜか。また、卒業生数増加に見合うだけの難関大学の合格者数が伸びていないのは残念との感想を述べられていた。合格実績の伸びが生徒募集にもつながるとの意見が出された。</p> <p>A eポートフォリオについては、総合型選抜において、学習歴や自分の高校生活を振り返る必要があり、継続することで志望理由書や面接試験に役立つと考えている。</p>	
3 進路指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> 指導室の活用不全。 進路のしおりの未活用。 進路行事の体系的構築の必要性。 進路委員会の活動不活性。 指定校推薦受験者の学力低下。 担任(学年)主導による出願指導。 現役大学進学78% (H30年度卒)。 	<ul style="list-style-type: none"> 指導室の整備・PCの導入。 進路のしおりの活用計画の作成。 進路行事の見直し。 進路委員担当者の設置。 指定校選考試験の実施。 出願指導検討会の実施。 数値目標の設定。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導室の利用状況。 進路のしおりの活用状況。 進路行事による進学意識の向上。 進路委員会の活動状況。 指定校選考試験の円滑な実施。 一般入試の大学合格実績。 数値目標の達成。 	<ul style="list-style-type: none"> 指導室を整備し、生徒が利用できる状況になった。PCも導入し、利用状況も良好である。 進路のしおりの利用は開始できたが、クラスによって活用状況に温度差が出た。 3年間の指導の流れに沿った行事を計画し、実施できた。 指導部内に進路委員の担当者を置いたが、十分な活動は見られなかった。 目標は設定したが昨年よりも進学率は下がり、71.9%という結果であった。専門学校希望者が多かったこと、浪人を選択する生徒が多かった(50名)ことが原因。ただし浪人については、妥協して満足できない大学へ進学するよりは良いと考える。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 指導室については、さらに環境の改善を図り、情報発信の場としていきたい。 進路のしおりにについては、学年からの意見を取り入れ、生徒の状況に合わせて改良を加えていく。 指導については、学年主導から、進路指導部主導へと切り替えた。その結果、3年間の指導の大きな流れは完成したが、実績としては昨年度を上回ることはできなかった。今後は学年や教科指導部とより連携を取って、ベクトルを合わせた指導をしていく必要がある。特に入試が大きく変わるので、その変化にも素早く対応できるように協力体制を作り上げていきたい。 	<p>Q 生徒指導部について、問題行動のうち、SNSに関する問題がなくなるにはなぜか。</p> <p>A 生徒は目の前にある端末画面が世界につながっていること、また永久に残るといったことを実感として持っていない。その場の雰囲気だけで軽率に掲載してしまう傾向が見られる。SNS上での誹謗中傷が多くの人を傷つけ、自分も傷つけることを自覚させ、今後も機会あるごとに指導していきたい。</p>	
4 生活指導 生徒指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶する生徒は増えているが、自発的な挨拶が課題であり、また声が小さい。 周囲の人への優しさと思いやりの部分で、集団心理が優先してしまい、登下校におけるマナーが徹底されていない生徒がみられる。(例えば、スマートフォン操作しながらの歩行や自転車運転・横並びによって道をふさいでしまうなど) 服装、特に女子生徒のソックスのずりさが気になる。 SNSでの安易な考え方による投稿で、指導される生徒がケースが目立つ。 	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶については、教職員が率先して取り組み、生徒とのコミュニケーションを図る。 下校マナーについては、学年集会などで指導をする。また、具体的な事故案件など提示し、マナー(安全)の必要性を理解させる。 現場での立哨指導を行う。 生徒心得など共通理解事項を共有し、全教員による声かけ指導に取り組む。また、校門での生徒指導部による登下校指導を行う。 SNSについては、具体的な例、本校での対処法や指導措置を伝え、理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒と教員間の挨拶の実践。 登下校のマナーにかかわる苦情の減少と交通事故件数の減少。 高校生に相応しい髪型や振舞い(制服の着こなし)、基本的生活習慣(欠席・遅刻数などの統計)。 問題行動(SNS含む)の有無。 地域からの評判(ボランティア活動や部活動での成績など) 	<ul style="list-style-type: none"> 全体的には、積極的に挨拶を心がけてくれる生徒が増えたが、声が小さい・出せないなどの生徒もいる現状である。 登下校での苦情や自転車事故の件数も減少している。来年度も継続して指導を行っていく。 問題行動は、全体的に落ち着いて生活できていて減少傾向であるが、悪質な悪戯による退学者が出てしまった。 今年度の卒業生643名中、皆勤129名・精勤194名で合わせると全体の半数近くなり、基本的生活習慣が身につけている。他学年についても、皆勤者数も伸びている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導は共通理解に基づき、教職員全体で行う(生徒・保護者からの信頼と公平性確保のため) 生徒指導の基盤はホームルームにあり、生徒指導の基本は担任であることを意識し積極的に行う。 ボランティア活動などを通じて、優しさと思いやりの心を育成し、人権尊重の精神を養うことを目指す。 生徒会及び委員会活動の活性化を図り、生徒主体性の学校作りを目指す。 保護者との信頼及び協力関係の形成を図る。 	<p>Q 近隣からの学校の評判について</p> <p>学校に対して近隣からの連絡として目立つのは、登校時、生徒数が多いため通勤の一般の方の通行を妨げてしまうことに対し改善してもらいたいというものが多く、通学路を分散させることにも問題があり、時差登校も現実的には難しい。駅から学校までの間の要所に教員が立つての指導を継続するとともに、生徒に現状を理解してもらい協力を得ながら改善をしていきたい。</p>	
5 広報 広報活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 定員520名を下回る生徒の入学。 492名【単願275名、併願217名(受験者2,534名)】 男女比52:48。 普通科定員充足率94.6% 	<ul style="list-style-type: none"> 積極的広報活動の展開。上級学校訪問やPTA高校見学の受け入れや進路講演会などへの参加。(上級学校訪問の受け入れ、PTA見学会の受け入れ、進路講演会への参加、出前授業の実施) 中学校訪問や塾訪問の実施。(中学校訪問、塾訪問) 学習塾主催相談会への参加。 ホームページによる生徒活動状況や学習への取り組み状況の発信。 	<ul style="list-style-type: none"> 学則定員の確保。 学校説明会、個別相談会、オープンスクール等の参加者の増加。 志願者数の増加。 単願希望者の増加 ホームページの迅速な更新。 	<ul style="list-style-type: none"> 定員充足率94.6%。となった。 オープンスクール参加者4,790名(昨年比101.4%)、学校説明会参加者3,501名(昨年比92.6%)、個別相談会参加者2,954件(昨年比85.8%) 志願者数2,534名(昨年比79.6%) 単願希望者292名(昨年比97.0%) ホームページ更新状況はやや改善した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 積極的広報活動の展開。上級学校訪問やPTA高校見学の受け入れや進路講演会などへの参加。 中学校訪問や塾訪問の実施。(中学校354校の絞り込み及び塾訪問延べ1,300塾訪問) 学習塾主催相談会への参加である。 ホームページによる生徒活動状況や学習への取り組み状況の迅速な情報発信を行う。 	<p>Q 学校の施設についての質問</p> <p>窓ガラスにフィルムを貼った目的は</p> <p>A 遮熱シート貼付作業を行い、窓際の生徒の暑さを軽減し、環境配慮の観点から併せてエアコンの稼働を抑制する目的で、年度末から令和2年度当初で作業を行った。</p>	